

は　じ　め　に

板野中学校長 漆 原 都 夫

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と、1947年ユネスコ憲章前文でうたわれていますが、部落問題を考えるとき、同対審答申の「心理的差別」のこばをまつまでもなく、「戦争」を「部落差別」におきかえれば、同じ思いがいたします。

私どもが、本校教育の現場で同和問題を考えるとき、生徒たちの前に「実態的差別」はほとんど見えなくなっているにも拘らず、対象地区の生徒たちは、依然として厳しい「心理的差別」の重圧を受けていることを痛感いたします。それだけに、私どもは、生徒の心の変容をせまる教育と同時に、教師自身が意識の変容をするための研修に努めました。そこで私どもが最も重点をおいたのは、同和問題学習でした。教師は授業で勝負、ということがよく言われますが、同和問題学習は、まさに教師も生徒も、一人の人間としての生き方が問われる勝負だと言えます。それも学級で担任と生徒との学習にとどまらず、学年全体、さらには学校全体で取り組むことにより意義があり、充実したものになることを、昨年度の体育館における全体学習から実感として受けとめました。

断わるまでもなく、同和問題については、授業でなく、学習なのです。道徳とか同和問題のように人間としての生き方が問われることでは、生徒と共に考え、学ぶことで、お互いに成長できるはずです。特に、本校において同和問題学習に取り組む時、教師が、差別に苦しむ子の思いを自分の思いとし、悩む子の一人一人から学ぶことがいかに多いかがわかるのです。そして、その学ぶ環を、学級から学年へ、学年から学校全体へ、そしてPTAや地域へ広めていくことに意義があると言えます。

今年度、本校において、板野郡同和教育研究大会と、徳島県中学校同和教育研究大会と二つの大会が行われます。おかげで、全職員が同和問題学習に取り組み、生徒と共に勉強し、それぞれに、何回か研究授業、公開授業を行い、多くの先輩の方々からご指導を受けることができました。それによって、生徒の心は大きく変容し、前進できたと思いますし、教師も、それぞれに同和問題学習の取り組み方もわかり、生徒一人一人の思いもつかめるようになったと思います。

この研究のあゆみは、そうした私どもの歩みの一端をまとめたものですが、ご覧いただいてわかりますように、まだまだ未熟で、同和教育についての理解、学習に不十分な点も多々ありますが、現在の歩み、特に同和問題学習についての全体学習を今後とも続けて、板野中学校の仲間すべてが、人間としての生き方についての自覚を深め、部落差別に打ち勝ち、差別を許さない人間として共に成長していきたいと思っておりますので、今後とも、厳しく、温かいご指導を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

はじめに	学校長 漆 原 都 夫
------------	-------------

I 本校の同和教育

1 学 校 の 概 要	1
2 本校の教育目標	2
3 年間計画（核心・関連）	3
4 実 践 記 録	8
(1) 1学年 指導案・授業記録	8
(2) 2学年 指導案・授業記録	26
(3) 3学年 指導案・授業記録	39

II 心の解放を求めて歩む集団づくり

1 校内・校外行事	55
(1) 部落問題意見発表会	55
(2) 創意的教育活動（ゆとりの時間の活動）	58
(3) 板野町解放文化展	61
2 学年・学級経営	64
(1) 1学年 一泊研修・養護学校との交流	64
(2) 2学年 修学旅行・全体での授業	75
(3) 3学年 全体学習・学年通信・意見発表会	85
3 学 習 会	105
(1) 学 習 内 容	105
(2) 一 泊 研 修	106
(3) 解放文化展への参加	110
(4) 自己を語る会	112
4 生 徒 会	114

III P T A の実践

1 解 放 文 化 展	117
2 同和教育授業参観	117
3 同和問題学習会	117
4 出張 P T A	118
5 学習会への参加	119
6 各種研修会・講演会への参加	119
7 反省と今後の課題	119

お わ り に	120
---------------	-----